

栃木県わがまち未来創造事業計画(実績)書(市町総括表)
【単独】

市町名	足利市
-----	-----

(単位:円)

No.	単位事業名		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	合計
1	あしかが映像まつり	総事業費	3,576,541	3,361,353	3,200,000	3,200,000	3,200,000	16,537,894
		うち市町支出額	2,955,925	3,001,041	2,700,000	2,700,000	2,700,000	14,056,966
		うち県交付金	1,477,962	1,500,520	21,518	0	0	3,000,000
2	演芸によるふるさとまちおこし寄席	総事業費		1,813,731	1,000,000	1,000,000	760,000	4,573,731
		うち市町支出額		480,000	480,000	480,000	240,000	1,680,000
		うち県交付金		240,000	240,000	240,000	0	720,000
3	足利冬物語	総事業費		5,396,361	5,500,000	2,000,000	2,000,000	14,896,361
		うち市町支出額		1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	4,000,000
		うち県交付金		500,000	500,000	500,000	0	1,500,000
4	観光サポーターズ事業	総事業費		1,196,734	1,020,000	1,020,000	1,020,000	4,256,734
		うち市町支出額		1,196,734	1,020,000	1,020,000	1,020,000	4,256,734
		うち県交付金		598,367	510,000	510,000		1,618,367
5	歩くまち空間創出事業	総事業費		821,037	860,000	800,000	400,000	2,881,037
		うち市町支出額		800,000	800,000	800,000	400,000	2,800,000
		うち県交付金		400,000	400,000	400,000	0	1,200,000
6	足利尊氏マラソン大会	総事業費	17,805,162	20,601,511	20,353,000	20,353,000	20,353,000	99,465,673
		うち市町支出額	2,500,000	2,500,000	2,500,000	2,500,000	2,500,000	12,500,000
		うち県交付金	1,250,000	1,250,000	500,000	0	0	3,000,000
7	まちなか賑わい創出事業	総事業費		350,000	700,000	450,000	350,000	1,850,000
		うち市町支出額		350,000	600,000	250,000	0	1,200,000
		うち県交付金		175,000	300,000	125,000	0	600,000
8	歩き愛です事業	総事業費			1,400,000	1,400,000	1,400,000	4,200,000
		うち市町支出額			300,000	300,000	300,000	900,000
		うち県交付金			150,000	150,000	150,000	450,000
9		総事業費						0
		うち市町支出額						0
		うち県交付金						0
10		総事業費						0
		うち市町支出額						0
		うち県交付金						0
市町計		総事業費	21,381,703	33,540,727	34,033,000	30,223,000	29,483,000	148,661,430
		うち市町支出額	5,455,925	9,327,775	9,400,000	9,050,000	8,160,000	41,393,700
		うち県交付金	2,727,962	4,663,887	2,621,518	1,925,000	150,000	12,088,367

栃木県わがまち未来創造事業計画(実績)書(単位事業調書)
【単独事業】

市 町 名	足利市
事 業 名	あしかが映像まつり
事業主体の名称	あしかが映像まつり実行委員会
代表者の名称	吉田 哲也
事業主体の所在	足利市本城3丁目2145
事業主体の概要	<p>・団体の目的:市民へ映像に触れる機会を提供するとともに、映像を入口とした観光誘客、商業振興を目的に実施する「あしかが映像まつり」の円滑な運営を図る</p> <p>・設立年月日:平成27年8月10日</p> <p>・構成員等:本市出身又は本市にゆかりのある映像関係者、市内関係団体から推薦を受けた者ほか</p>
当該事業に係る地域の現状と課題	足利市では、第7次足利市総合計画の戦略プロジェクトに「映像」をキーワードとした街づくりを目指した「映像のまち構想プロジェクト」を掲げ、映像制作やロケーション活動の拠点づくり等の実現に向け様々な事業を展開している。今後の課題は、「映像のまち」に対する市民意識の醸成を図るとともに、観光誘客うあ関連産業の誘致に向け、どのようにPRしていくかである。
事業目的	「映像のまち」が市民意識に浸透し、風土や文化として息づくまちの実現を目指しながら、歴史、文化、自然などの地域資源を活用し、まちの魅力をさらに高め、これらを活用した観光誘客の活性化を図る。
事業概要	<p>【平成30年度】</p> <p>> 第1弾『西高開放』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロケ地として人気の旧足利西高校を開放して市民との接点を持つ。 ・来場者見込み300人 ・会場:旧足利西高校(足利市大前町103-11) <p>> 第2弾『野外上映会』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年、実績を作った『星空とダム映画館』を継続し、野外での上映体験という貴重な機会を市民に提供し、映画への親しみをもってもらう ・来場者見込み300人 ・会場:松田川ダムふれあい広場(足利市松田町地内) <p>> 第3弾『まちなか上映会』</p> <p>市内3か所を2日間に渡り、ゲストトークショー付き映画上映などのイベントを実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来場者数見込み500人 ・会場:ユナイテッド・シネマ アシコタウンあしかが、足利商工会議所、旧東映プラザ
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	<p>【基本目標】まちの魅力を高め足利へのひとの流れをつくる</p> <p>【KPI】観光入込客数 基準値:H26年度 355万人 → 目標値:H31年度 386万人</p> <p>【KPI達成状況】H27年度 394万人、H28年度 411万人、H29年度 475万人</p>

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

(単位:円)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
事業内容	①映画の上映会 ②講演会 ③市内外向けPR	映画上映イベント	映画上映イベント		
事業費	3,576,541	3,361,353	3,200,000	10,137,894	3,200,000
市町支出金 (ソフト事業分)	2,955,925	3,001,041	2,700,000	8,656,966	2,700,000
うち県交付金	1,477,962	1,500,520	21,518	3,000,000	
市町支出金 (ハード事業分)				0	
うち県交付金				0	
その他自主財源等	620,616	360,312	500,000		500,000

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	映像のまち推進課
担当者名	松浦
電話	0284-20-2260
FAX	0284-21-1384
E-mail	eizo@city.ashikaga.lg.jp

栃木県わがまち未来創造事業計画書(単位事業調書)
【単独事業】

市町名	足利市
事業名	演芸によるふるさとまちおこし寄席
事業主体の名称	ふるさとまちおこし寄席実行委員会
代表者の名称	会長 浜田陽一
事業主体の所在	〒326-8601 足利市本城三丁目2145(観光振興課内)
事業主体の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・団体の目的:この会の趣旨に賛同する者が連携して、演芸を活用しながら地域の発展及び活性化に寄与すること ・設立年月日:平成25年5月8日 ・構成員等:三遊亭歌橋、プラザハマダ、足利市観光協会、足利市 等
当該事業に係る地域の現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・足利市には落語界で栃木県初の真打となられた「三遊亭歌橋」師匠がいます。 ・演芸の中でも特に落語はNHK教育テレビでも取り上げられ、子供たちにも親しまれております。古典落語は、江戸時代から明治時代にかけて庶民の生活を伺い知ることができるとともに、人にわかりやすく物語を伝えることができる「話術」であり、後世に残していくべき伝統芸能です。 ・演芸界には、足利市出身の演芸実演者が活躍していますが、足利市ではその人材を活かしていない現状があります。 ・演芸界における著名人のSNSを使用した拡散は大きな効果があり、あしかが輝き大使である「三遊亭歌橋」師匠を通じた情報発信は、足利の魅力発信に大きな効果が期待できます。 ・演芸のまち「浅草」と足利市は東武伊勢崎線が近づいています。浅草での情報発信は足利へ観光誘客を図るには効果が高いと考えられます。
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・市内各地において寄席を定期的に開催することにより、地域活性化につなげるとともに観光ツアーの造成につなげる。 ・首都圏での演芸場等でPRすることにより新たな観光誘客につなげる。 ・落語や漫才など「話す」ことを主とした演芸に触れることにより、市民の「国語力」向上につなげる。
事業概要	<p>【平成30年度】</p> <p>①ふるさとまちおこし寄席の開催 日時:5月20日、10月28日、ほか 開場:正午 開演:午後1時 場所:足利市民プラザ小ホール 内容:足利落語道場の発表会及び演芸実演者による寄席</p> <p>②寄席開催にかかる広告物の作成 広告物の内容:チラシ、ポスター 広告物の配布先:チケット販売所、観光拠点施設、公民館、老人福祉施設、接骨院 など</p> <p>③落語道場の実施 日時:月1回の開催 場所:ハマダホール(通二丁目) 内容:三遊亭歌橋師匠による落語の指導</p> <p>※出演者や関係者のSNSにより寄席の情報や足利市の情報の拡散を図り、足利市の魅力を発信する。</p> <p>【平成31年度】 継続的な実施により、催事規模を拡大する。</p>
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	<p>【目標】観光入込客数(平成31年度目標値)</p> <p>【KPI】H26 355万人 → H31 400万人</p> <p>【KPI達成状況】H27 394万人、H28 411万人、H29 475万人</p>

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

(単位:円)

	29年度	30年度	31年度	支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
事業内容	①ふるさとまちおこし寄席の開催 ②寄席開催にかかる広告物の作成 ③落語道場の実施	①ふるさとまちおこし寄席の開催 ②寄席開催にかかる広告物の作成 ③落語道場の実施	①ふるさとまちおこし寄席の開催 ②寄席開催にかかる広告物の作成 ③落語道場の実施		①ふるさとまちおこし寄席の開催 ②寄席開催にかかる広告物の作成 ③落語道場の実施
事業費	1,813,731	1,000,000	1,000,000	3,813,731	760,000
市町支出金 (ソフト事業分)	480,000	480,000	480,000	1,440,000	240,000
うち県交付金	240,000	240,000	240,000	720,000	
市町支出金 (ハード事業分)				0	
うち県交付金				0	
その他自主財源等	1,333,731	520,000	520,000	2,373,731	520,000

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	観光振興課観光・コンベンション担当
担当者名	吉澤 剛
電話	0284-20-2165
FAX	0284-43-3333
E-mail	kankou@city.ashikaga.lg.jp

栃木県わがまち未来創造事業計画書(単位事業調書)
【単独事業】

市町名	足利市
事業名	足利冬物語
事業主体の名称	足利冬物語実行委員会
代表者の名称	委員長 早川慶治郎
事業主体の所在	〒326-8502 足利市通三丁目2757
事業主体の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・団体の目的: まちなかが閑散としがちな冬季に賑わいを創り出そうと新しいイベントを創出する ・設立年月日: 平成27年12月4日 ・構成員等: 足利市、足利商工会議所、足利市観光協会、足利市農業協同組合 ほか
当該事業に係る地域の現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・足利市には、歴史、文化、自然その他の豊かな地域資源があります。その資源を磨き上げ、まちの魅力としてさらに高め、観光と交流の活性化を図る必要があります。 ・地域資源を発掘し、その資源を活用した新商品を開発し、新たな誘客と、来訪者の宿泊や飲食などの消費行動を促進し、中心市街地及び市内全域の経済活性化を図る必要があります。 ・現在、観光プロモーションにおいて、四季のイベントや祭事を取りまとめ、情報発信をしています。その中で冬季はまだ資源が乏しく、中心市街地も閑散とした雰囲気が漂っています。 ・その中において、毎年2月3日の節分に実施されている「節分鑑年越し」があります。鑑行列の武将の姿は外国人にも人気が高く、平成30年2月3日は土曜日となります。これを機会に、「節分行事」と「鑑行列」を分離し、土曜日の夕刻からの開催で定着させることを検討します。
事業目的	「足利冬物語」として、100年以上にわたり実施されている伝統行事「節分鑑年越し」と食のイベント「足利風土祭」、行灯でまちなかを彩る光のイベント「足利銘仙灯り」を実施することにより冬季における市内への観光誘客を促進し、回遊性を高めめます。
事業概要	<p>【平成30年度】</p> <p>■足利冬物語の開催</p> <p>①鑑年越しの観光商品化 期日: 2月3日(日)～3週間程度 場所: 織姫公民館～鏝阿寺 内容: 足利市の冬の伝統的行事である「節分鑑年越し」。外国人観光客や市内外からの誘客につなげるための連携事業の実施</p> <p>②足利風土祭の実施 期間: 2月3日(日)～3週間程度 場所: 市内飲食店、ギャラリー など 足利の食文化の活性化・芸術文化の再認識・農と食の安全安心をアピールすることで街の活性化につなげるイベントの開催 内容: 飲食店が企画したイベントを足利産の食材を使った料理とともに楽しんでもらうコース「風土祭コース」、自慢の料理と飲み物を低額、低料金で提供するコース「ほろ酔いコース」、ギャラリーや画廊が足利ゆかりの作家の作品を展示するコース「アートコース」</p> <p>③足利銘仙灯りの実施 期間: 2月3日(日)～3週間程度 場所: 中心街の石畳通り、足利風土祭参加店舗の店先 など 期間中の夕刻に幻想的な雰囲気を演出し、市内回遊を回り待ちの活性化につなげる。 内容: 足利市の織物業の中心であった足利銘仙は斬新な図柄が人気を誇った。その図柄を活用した行灯を街の中に設置します。</p> <p>【平成31年度】</p> <p>継続的な実施により、催事規模を拡大する。</p>
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	<p>【目標】観光入込客数(平成31年度目標値)</p> <p>【KPI】H26 355万人 → H31 400万人</p> <p>【KPI達成状況】H27 394万人、H28 411万人、H29 475万人</p>

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

(単位:円)

	29年度	30年度	31年度	支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
事業内容	①鑑年越しの観光商品化 ②足利風土祭の実施 ③足利銘仙灯りの実施	①鑑年越しの観光商品化 ②足利風土祭の実施 ③足利銘仙灯りの実施	①鑑年越しの観光商品化 ②足利風土祭の実施 ③足利銘仙灯りの実施		①鑑年越しの観光商品化 ②足利風土祭の実施 ③足利銘仙灯りの実施
事業費	5,396,361	5,500,000	2,000,000	12,896,361	2,000,000
市町支出金 (ソフト事業分)	1,000,000	1,000,000	1,000,000	3,000,000	1,000,000
うち県交付金	500,000	500,000	500,000	1,500,000	
市町支出金 (ハード事業分)				0	
うち県交付金				0	
その他自主財源等	4,396,361	4,500,000	1,000,000	9,896,361	1,000,000

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	観光振興課観光・コンベンション担当
担当者名	吉新 知照
電話	0284-20-2165
連絡先 FAX	0284-43-3333
E-mail	kankou@city.ashikaga.lg.jp

栃木県わがまち未来創造事業計画書(単位事業調書)
【単独事業】

市町名	足利市
事業名	観光サポーターズ事業
事業主体の名称	一般社団法人足利市観光協会
代表者の名称	代表理事 早川慶治郎
事業主体の所在	〒326-0053 足利市伊勢町三丁目6-4
事業主体の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・団体の目的: 足利市内における観光事業の振興を図り、産業・文化の発展に寄与することを目的とする。 ・設立年月日: 平成26年10月1日 ・構成員等: 観光振興関係団体
当該事業に係る地域の現状と課題	<p>足利市内における観光を推進していく中では市民の協力は不可欠であります。足利市の魅力を最大限に情報発信するには、「足利を愛し、足利の知識がある」方に担っていただく必要があります。観光のまちづくりを推進するためには、「おもてなし」意識を皆が持ち、市民の皆様は観光地としての意識改革をしなければなりません。</p> <p>観光誘客におけるキャンペーンなどでは、職員が実施している現状であり、人件費の負担が大きくなっています。観光ボランティアガイドの皆さんは知識も豊富で活躍をされています。しかし、新たに加入しづらい状況がみられます。</p>
事業目的	<p>足利市内における観光を推進するために市民協力がしやすい環境を整えます。観光のまちづくりを推進するために、「おもてなし」研修会を開催し、市民の皆様は観光地としての意識改革を図ります。足利が大好きな方が、市外の皆様は足利の良さを伝えることにより、より高い高感度を得られることが期待できることから、観光に携わるアシスタントを公募し、登録していただき、様々な観光誘客の機会でも活躍していただきます。観光ボランティアガイドを大きな枠の中で活動していただき、相互協力体制を作って、互いに関心を示していただき、加入しやすい環境を作ります。</p>
事業概要	<p>【平成30年度】</p> <p>①観光案内人の育成と常駐体制の整備 常駐案内期間: 4月21日から5月20日10月20日～11月25日の土日祝日など 先進地視察研修: 9月下旬 ボランティアガイド研修会: 6月下旬(総会開催時) 内容: 史跡足利学校に常駐して観光案内を実施することにより足利の魅力を高めるとともに郷土愛の醸成を図る。</p> <p>②観光アシスタントの公募、観光案内人・観光アシスタントとの相互協力体制の構築 実施日: 観光キャンペーンや旅行会社からの依頼等に対応する。 内容: 観光に係る活動をしたい市民の方に登録していただき、観光事業の際に自分の得意分野を活かして活躍していただく制度です。</p> <p>③外国語ボランティアガイドの育成 実施日: 9月から4回程度の開催 外国語の得意な方に足利の情報を提供し、外国人に対応する場面で活躍する場面を創出します。【平成30年度】</p> <p>【平成31年】 継続的な実施により、参画者の増加と事業の拡大を図る。</p>
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	<p>【目標】観光入込客数(平成31年度目標値)</p> <p>【KPI】H26 355万人 → H31 400万人</p> <p>【KPI達成状況】H27 394万人、H28 411万人、H29 475万人</p>

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

(単位:円)

	29年度	30年度	31年度	支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
事業内容	①観光案内人の育成と常駐体制の整備 ②観光アシスタントの公募、観光案内人・観光アシスタントとの相互協力体制の構築 ③外国語ボランティアガイドの育成	①観光案内人の育成と常駐体制の整備 ②観光アシスタントの公募、観光案内人・観光アシスタントとの相互協力体制の構築 ③外国語ボランティアガイドの育成	①観光案内人の育成と常駐体制の整備 ②観光アシスタントの公募、観光案内人・観光アシスタントとの相互協力体制の構築 ③外国語ボランティアガイドの育成		①観光案内人の育成と常駐体制の整備 ②観光アシスタントの公募、観光案内人・観光アシスタントとの相互協力体制の構築 ③外国語ボランティアガイドの育成
事業費	1,196,734	1,020,000	1,020,000	3,236,734	1,020,000
市町支出金(ソフト事業分)	1,196,734	1,020,000	1,020,000	3,236,734	1,020,000
うち県交付金	598,367	510,000	510,000	1,618,367	
市町支出金(ハード事業分)				0	
うち県交付金				0	
その他自主財源等	0	0	0	0	0

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	観光振興課観光・コンベンション担当
担当者名	久保 康弘
電話	0284-20-2165
FAX	0284-43-3333
E-mail	kankou@city.ashikaga.lg.jp

栃木県わがまち未来創造事業計画書(単位事業調書)
【単独事業】

市町名	足利市
事業名	歩くまち空間創出事業
事業主体の名称	門前マルシェ実行委員会
代表者の名称	委員長 井汲 義晃
事業主体の所在	〒326-8601 足利市本城三丁目2145(観光振興課内)
事業主体の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・団体の目的: 足利市内における観光事業の振興を図り、産業・文化の発展に寄与することを目的とする。 ・設立年月日: 平成30年4月2日 ・構成員等: 足利市内の企業経営者、足利市観光協会、足利市など
当該事業に係る地域の現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・足利市は、「足利学校」・「鍬阿寺」など、貴重な歴史遺産が中心市街地にまとまって存在するという、近隣市には無い特色と地理的優位性がある。その特長を最大限に生かして、まちのにぎわいを再生し中心市街地の活性化や交流人口の増加による経済活性化につなげる取り組みを行っていくことが課題である。 ・少子高齢化・人口減少が急速に進む中、高齢になっても地域で元気に暮らせる社会を実現するために「健康＝健康で幸せ(身体面の健康だけでなく、人々が生きがいを感じ、安心安全で豊かな生活を送れること)」づくりである「スマートウェルネスシティ構想」を推進している。 ・「スマートウェルネスシティ構想」の実現の一つとして、人が集う魅力ある場所を創出し、回遊性を高め、まちのにぎわい創出につなげる取り組みを行っていくことが課題である。
事業目的	<p>「スマートウェルネスシティ構想」の実現の一つとして、魅力ある場所を創出し人を集め、回遊させることにより、にぎわいを創出につなげる取り組みを実施する。自動車の流入を制限する区域を設定し、安全・安心に歩かせることにより、日常の身体活動量の増加による健康度の向上、医療費の抑制、さらにはまちの元気につなげる。</p> <p>そのために、まち歩き拠点施設である「足利まちなか遊学館」との連携により、週末に学校様通りを歩行者天国区間として開放し、催事を開催することにより、市民や観光客の交流によるまちのにぎわいの創出を目指す。</p>
事業概要	<p>【平成30年度】 【事業概要】 ①車両の進入を規制してのイベントの開催 開催日: 平成30年6月3日(日)、9月、3月、年3回開催予定 開催場所: 足利学校様通り ②イベントとさらに充実させるためのテーブル、イスの購入 ③イベントを広く周知するため、ホームページやSNS等を使った広報を行う。</p> <p>【KPIにつながる取組】 ・ホームページやSNSなど、紙媒体以外での周知を行い県内外からの交流人口を増やす。 ・歩行者天国を使ったイベントの実施により交流を図り、市内外からの観光誘客につなげる。 ・歩行者天国区域から市内回遊を促進させ、まちのにぎわいを創出し、中心市街地の活性化を図る。</p> <p>【平成31年度】 さらに開催日数の拡大を図るとともに、より多くの集客を図れるイベントに成長させる。</p>
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	<p>【目標】観光入込客数(平成31年度目標値) 【KPI】H26 355万人 → H31 400万人 【KPI達成状況】H27 394万人、H28 411万人、H29 475万人</p>

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

(単位:円)

	29年度	30年度	31年度	支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
事業内容	①車両の進入を規制してのイベントの開催 ②イベント実施のためのテントの購入	①車両の進入を規制してのイベントの開催	①車両の進入を規制してのイベントの開催		①車両の進入を規制してのイベントの開催
事業費	821,037	860,000	800,000	2,481,037	400,000
市町支出金 (ソフト事業分)	800,000	800,000	800,000	2,400,000	400,000
うち県交付金	400,000	400,000	400,000	1,200,000	
市町支出金 (ハード事業分)				0	
うち県交付金				0	
その他自主財源等	21,037	60,000	0	0	0

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	観光振興課観光・コンベンション担当
担当者名	吉新 知照
電話	0284-20-2165
連絡先 FAX	0284-43-3333
E-mail	kankou@city.ashikaga.lg.jp

栃木県わがまち未来創造事業計画(実績)書(単位事業調査)
【単独事業】

市町名	足利市
事業名	足利尊氏公マラソン大会
事業主体の名称	足利尊氏公マラソン大会実行委員会
代表者の名称	会長 和泉 聡
事業主体の所在	足利市本城3丁目2145 足利市教育委員会事務局 市民スポーツ課
事業主体の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・団体の目的:生涯スポーツの推進を図ると共に、足利市のPR及び活性化に寄与することを目的とする。 ・設立年月日:平成26年7月16日 ・構成員:足利市、足利商工会議所、栃木県安足土木作業事務所、足利市自治会長連絡協議会、足利市農業協同組合、(公財)足利市みどり文化・スポーツ財団、足利市体育協会、足利交通安全協会、足利陸上競技倶楽部、足利市レクリエーション協会、足利市交通指導員連絡会、(一社)足利青年会議所、足利市スポーツ推進委員会など
当該事業に係る地域の現状と課題	足利尊氏公マラソン大会は、今年度で第41回目の開催となり、近年の健康ブームから参加者は約5,000人ほどの市民に定着したイベントとなった。また、市外からも約3,000人の参加があり、スポーツイベントという枠にとどまらず、観光振興やシニアプロモーションにおいても大いに活用が期待される。しかし、大会運営にあたり交通規制のための委託料等経費が年々増加している。
事業目的	本来の目的である生涯スポーツの推進を図るとともに、足利市の魅力を全国に積極的に発信する絶好の機会になることから、本市の活性化に寄与することを目的とする。
事業概要	<p>【平成30年度】 【大会概要(案)】 ①期日:平成30年11月4日(日) ②会場:足利市総合運動場ほか ③種目:ハーフマラソン、10km、5km、3km、ペア ④主催:足利尊氏公マラソン大会実行委員会 ⑤共催:足利市、足利市教育委員会、足利商工会議所 ⑥後援:栃木県 ⑦参加料金:大人3,500円、高校生2,000円、中学生以下1,500円、ペアの部3,500円(1組) ⑧参加資格:各種目に該当する健康な方。小中高校生については保護者が認めた方。 ⑨表彰他:ペアの部以外は1~6位入賞者に賞状、賞品を贈呈。参加者全員に参加賞。完走した全ての方に記録証を発行。 ⑩申込方法:インターネット、電話 ⑪申込締切日:平成30年9月6日(木)※申込締切日に限らず、各種目とも定員に達し次第締め切り。</p> <p>【KPI向上に繋がる取組】 ・市外から参加したランナーには、足利市の歴史や文化に触れていただけるよう、ナンバーカードの提示により中心市街地の文化施設(足利学校・市立美術館等)の入場料を無料(市内ランナーも可)とし、観光回遊性や消費を高める事業との連携した取り組みを行う。 ・市民参加の皆様には、生涯スポーツを推進するようなイベントとして盛り上げていく。 ・ラッキー賞を創設し、賞品に市の名産品を活用するなど、観光PRに努めるとともに、大会参加後にはまちなかで文化財めぐりなどが出来るしかけづくりを行う。また、第39回大会から仮装大賞が復活し、多くの仮装ランナーが会場を盛り上げる。 ・毎年好評である足利市レクリエーション協会と連携したレクリエーションや遊びのイベントを開催し、ランナーの帰りを待つ家族や、会場を訪れていた親子が楽しめるような内容とする。また、自治会のご協力もいただき、応援旗を配布するなどコース沿道の応援者を増やす。</p> <p>【平成31年度】 前年度の取組を継続し、より多くの集客を得られるよう、オリジナル性のある参加賞の作成、足利市の特色を生かしたイベントの開催、観光PRとなるような効果のあるイベントに成長させる。さらにマラソン大会にとどまらず、大会に参加せずとも、休日を家族で楽しめるイベントとして内容を充実させていきたい。</p>
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	<p>【基本目標】まちの魅力を高めて足利へのひとの流れをつくる 【KPI】観光入込客数 基準値:H26年度 355万人 → 目標値:H31年度 386万人 【KPI達成状況】H27年度 394万人、H28年度 411万人、H29年度 475万人</p>

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

(単位:円)

	28年度	29年度	30年度	支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・マラソン大会の開催 ・レクリエーションイベントの開催 ・レースコースの安全管理 ・ポスター・チラシ等の作成 ・大会参加者のエントリー受付 ・実行委員会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・マラソン大会の開催 ・レクリエーションイベントの開催 ・レースコースの安全管理 ・ポスター・チラシ等の作成 ・大会参加者のエントリー受付 ・実行委員会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・マラソン大会の開催 ・レクリエーションイベントの開催 ・レースコースの安全管理 ・ポスター・チラシ等の作成 ・大会参加者のエントリー受付 ・実行委員会の開催 		<ul style="list-style-type: none"> ・マラソン大会の開催 ・レクリエーションイベントの開催 ・レースコースの安全管理 ・ポスター・チラシ等の作成 ・大会参加者のエントリー受付 ・実行委員会の開催
事業費	17,805,162	20,601,511	20,353,000	58,759,673	20,353,000
市町支出金 (ソフト事業分)	2,500,000	2,500,000	2,500,000	7,500,000	2,500,000
うち県交付金	1,250,000	1,250,000	500,000	3,000,000	
市町支出金 (ハード事業分)				0	
うち県交付金				0	
その他自主財源等	15,305,162	18,101,511	17,853,000	51,259,673	17,853,000

市町担当情報	
担当課(グループ・係)名	市民スポーツ課
担当者名	近藤 真衣
電話	0184-20-2232
FAX	0284-20-2214
E-mail	s-sports@city.ashikaga.lg.jp

栃木県わがまち未来創造事業計画(実績)書(単位事業調査)
【単独事業】

市町名	足利市
事業名	まちなか賑わい創出事業
事業主体の名称	ARTあしかが実行委員会
代表者の名称	栗田 俊英
事業主体の所在	足利市本城3丁目2145
事業主体の概要	<p>・団体の目的:アートを通して本市の魅力を感じてもらうとともに、関係者と連携を図ることで、観光誘客及び商業振興を目的に開催するアートイベント「ARTあしかが」の円滑な運営</p> <p>・設立年月日:平成29年11月8日</p> <p>・構成員等:市内の美術館又はギャラリーの責任者、市内で作品展示を行うアーティスト又は団体の責任者、学識経験者など</p>
当該事業に係る地域の現状と課題	<p>本市では、第7次足利市総合計画の戦略プロジェクトに、「まちの魅力発信プロジェクト」を掲げ、歴史・文化・自然・風土などの豊かな地域資源を磨き上げ、まちの魅力を更に高め、地域のおもてなしと地域の特性を活かしながにぎわいと魅力あるまちづくりに取り組んでいる。また本市には、本市に魅力を感じる市民団体などが市内の古民家等を活用した作品展示を行っている。</p> <p>今後一層の交流人口の増加によるにぎわい創出のためには、各種団体の連携と一体的な広告宣伝が課題である。</p>
事業目的	<p>平成30年春の栃木デスティネーションキャンペーンに併せて、市内の美術館、ギャラリー、古民家等を会場としたアートイベント「ARTあしかが」を開催することで、首都圏などからの更なる交流人口の増加による地域活性化を図る。</p> <p>また市民がアートを通して、普段気づかない本市の魅力を再認識することで、シビックプライドの醸成を図る。</p>
事業概要	<p>■ARTあしかがの事業概要</p> <p>市立美術館及び市内ギャラリーが連携するアートリンクあしかがや、市内で作品展示を行う各種団体が、栃木デスティネーションキャンペーン期間中に連携し、アートイベント「ARTあしかが」を開催する。実行委員会では期間中、各種展示を一体的に楽しんでいただけるような企画展等の開催、イベント全体の広告宣伝、関係団体との連携を図るための実行委員会を開催し、各種展示については各種団体がそれぞれ自主的に行うものとする。</p> <p>ARTあしかが2018「あしかがアートのクロス」</p> <p>期間:平成30年5月～6月</p> <p>会場:市内の美術館、ギャラリー、古民家等</p> <p>■平成30年度の実施予定</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種展示を一体的に楽しんでいただける企画展等の開催 平成31年度のARTあしかが開催に向けた準備(イベント全体の広告宣伝) 作品を展示する各種団体との連絡調整
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	<p>【目標】観光入込客数(H31年度目標値)</p> <p>【KPI】H26 355万人 → H31 400万人</p> <p>【KPI達成状況】H27 394万人、H28 411万人、H29 475万人</p>

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

(単位:円)

	29年度	30年度	31年度	支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
事業内容	<p>【ARTあしかが2018】</p> <p>①企画展等の計画</p> <p>②イベントの広告宣伝</p> <p>③関係者協議</p>	<p>【ARTあしかが2018】</p> <p>①企画展等の開催</p> <p>【ARTあしかが2019】</p> <p>①企画展等の計画</p> <p>②イベントの広告宣伝</p> <p>③関係者協議</p>	<p>【ARTあしかが2019】</p> <p>①企画展等の開催</p>		<p>【ARTあしかが2020】</p> <p>①企画展等の計画</p> <p>②イベントの広告宣伝</p> <p>③関係者協議</p>
事業費	350,000	700,000	450,000	1,500,000	350,000
市町支出金 (ソフト事業分)	350,000	600,000	250,000	1,200,000	0
うち県交付金	175,000	300,000	125,000	600,000	
市町支出金 (ハード事業分)				0	
うち県交付金				0	
その他自主財源等	0	100,000	200,000	300,000	350,000

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	企画政策課・地方創生担当
担当者名	柏瀬 誠
電話	0284-20-2103
FAX	0284-21-1384
E-mail	kikaku@city.ashikaga.lg.jp

栃木県わがまち未来創造事業計画書(単位事業調書)
【単独事業】

市町名	足利市
事業名	歩き愛です事業
事業主体の名称	足利歩き愛です実行委員会
代表者の名称	委員長 西村晃
事業主体の所在	〒326-0807 足利市大正町863番地7(足利市健康増進課内)
事業主体の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・団体の目的:歩いて健康になる、歩きたくるたのしいまちをつくるために推進しているスマートウェルネスあしかがの取組みの一環として、足利歩き愛ですを実施するにあたり、その円滑な運営と官民一体となった新しいイベント創出のため設置。 ・設立年月日:平成28年10月24日 ・構成員等:GS世代研究会、足利商工会議所、足利市観光協会、足利商業連合会、足利市坂西商工会、足利市
当該事業に係る地域の現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・栃木県は人口1人あたりの乗用車保有台数が全国2位であり、近所のお店などにも車で行く人が多い。 ・国の調査などでは、健康づくりのために行動する人と行動しない人が3:7の割合という結果が出ている。 ・少子高齢化・人口減少が急速に進む中、足利市では高齢になっても地域で元気に暮らせる社会を実現するために「健康(けんこう)=健康で幸せ(身体面の健康だけでなく、人々が生きがいを感じ、安心安全で豊かな生活を送れること)」づくりである「スマートウェルネスシティ構想」を推進している。 ・「スマートウェルネスシティ構想」の実現の一つとして、気軽に参加できる楽しいイベントを開催し、まちなかを回遊してもらうことにより、まちのにぎわい創出につなげる取組みを行っていくことが課題である。
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・運動のきっかけ作りから継続へとつなげる(専用歩数計を使用し1万歩を目標に歩くイベント) ・市内店舗の協力による商業・サービスの活性化、まちのにぎわい創出(専用歩数計提示による優待店舗のサービス) ・観光誘客(歩き愛ですは共通の専用歩数計を使用し全国で開催されている 専用歩数計持参者は参加料無料)
事業概要	<p>【平成30年度】 足利歩き愛ですの開催 日時:1月20日 受付開始:午前9時 出発:午前10時20分 最終ゴール:午後2時 場所:大日苑 饅阿寺 西側イベント広場(スタート・ゴール会場) 足利七福神巡りウォーキングコース 約8km 内容:専用歩数計を使用し1万歩を目標に足利歴史クイズを解きながら歩くイベント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者から参加料1,000円を徴収し、その参加証として専用の歩数計を配布(専用歩数計持参者は参加料無料) ・10か所のチェックポイントで足利歴史クイズを出題 1問正解するとボーナス歩数1,000歩 ・スタート地点では協力団体によるブース出展(血圧測定、減塩アドバイス、準備体操等) ・ゴール後に協賛企業(※57社)からの豪華完歩賞を贈呈 ・歩数計の歩数プラス歴史クイズ正解歩数が20,000歩達成した方は、豪華景品の抽選くじに参加 ・市内優待店舗(※41店舗)は専用歩数計の提示により様々なサービス提供の協力 ・健康(けんこう)マイレージスタンプ対象事業として開催 <p>※平成29年度実績 参加者約1,400人</p> <p>【平成31年度】 コースや時期の変更を検討しながら継続的に実施していき、催事規模を拡大する。</p>
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	<p>【目標】健康マイレージ参加者数(平成31年度目標値)</p> <p>【KPI】H28 4,000人 → H31 11,000人</p> <p>【KPI達成状況】H28 1,273人 H29 2,046人</p>

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

(単位:円)

	30年度	31年度	32年度	支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
事業内容	足利歩き愛ですの開催	足利歩き愛ですの開催	足利歩き愛ですの開催		足利歩き愛ですの開催
事業費	1,400,000	1,400,000	1,400,000	4,200,000	1,400,000
市町支出金 (ソフト事業分)	300,000	300,000	300,000	900,000	300,000
うち県交付金	150,000	150,000	150,000	450,000	
市町支出金 (ハード事業分)				0	
うち県交付金				0	
その他自主財源等	1,100,000	1,100,000	1,100,000	3,300,000	1,100,000

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	健康増進課スマートウェルネスシティ担当
担当者名	横田 秀行
電話	0284-40-3112
連絡先 FAX	0284-41-1977
E-mail	wellness@city.ashikaga.lg.jp